

経営発達支援計画
令和3年度伴走型小規模事業者支援推進事業

コロナ禍における施策・支援要望調査 地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(令和3年7月～令和3年9月)

京丹後市商工会

コロナ禍における施策・支援要望調査

～ 新型コロナウイルス感染症関連施策・制度等の活用実態について～ 令和3年11月1日

＜調査概要＞

【調査目的】新型コロナウイルス感染症に関連した施策等の活用実態を地域経済動向調査と併せて実施することで、事業者との関わり頻度を増やし、実態に沿った施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。

【調査対象】地域経済動向調査を実施している小規模事業者101件(有効回答数97件)

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査

新型コロナウイルス感染症関連施策・制度等を活用実態についてのヒアリングを、給付金、補助金、金融の3つの視点から調査を行いました。

全体の活用実態については、図表1の円グラフの通り、87.6%の事業者が何らかの施策を活用したと回答しています。

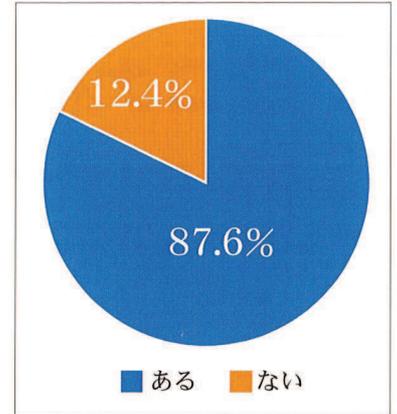
その内、給付金施策については「持続化給付金」の申請に約9割の事業者が行っていました。続いて、京丹後市事業継続応援(支援)給付金となり、何れも「売上減少に伴う給付金施策」で、新型コロナウイルス感染症が市内事業者に大きな売上減少といった影響を与え、また、それに伴って、雇用調整助成金や京都府緊急事態措置協力金の重複活用も必要となり、経営自体(従業員確保を含む)を持続させることに苦慮されたことが窺えます。(図表2参照)

補助金施策については、持続化補助金や事業再構築補助金等といった一定のリスクを伴う前向きな事業展開への補助金より、京都府や京丹後市の身近な感染予防対策を伴った備品購入要素が高い補助金活用の実態が多くあった結果となりました。(図表3参照)

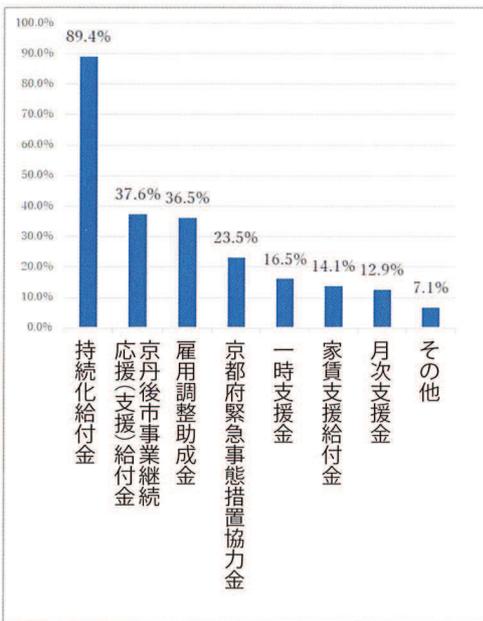
金融施策については、そのほとんどが「コロナ特別貸付」で、全体の8割程度が利用しています。その内、半数以上は、対応期間が早かった民間金融機関を利用したと回答。当該施策は返済据置期間や(実質無利子期間)があったため、当面の資金繰り対策として利用価値が高まりましたが、据置終了後(概ね3年先)の対応が心配されます。(図表4参照)

結論的に新型コロナウイルス感染症関連施策・制度等を活用頻度は高く、今後、施策等活用後のアフターフォロー支援が重要且つ必要であると考えます。特に、大きな売上減少といった打撃を受け、給付金、補助金及び金融施策など重複して活用した事業者へ、新たな生活様式を踏まえた、新たな付加価値の創造を促すなど、事業者と一体となった伴走型の支援がますます重要になってくると考えます。

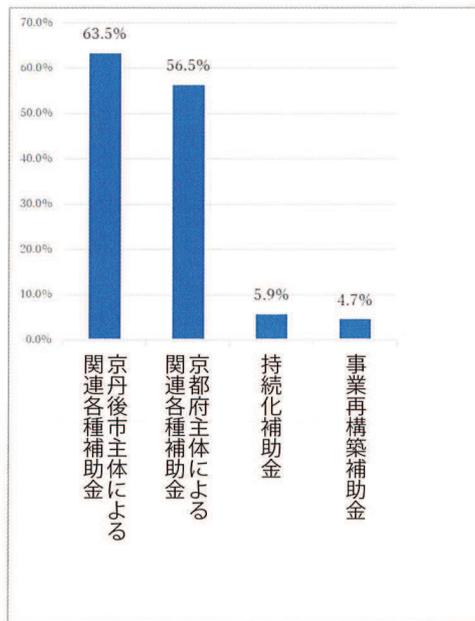
次回レポート発行時は、当該事業者を中心に、ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた支援要望について、調査結果を掲載します。



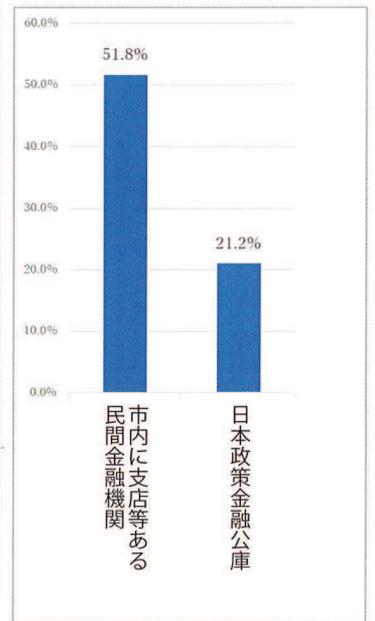
図表1: 何かしらの施策や制度等の活用有無



図表2: 給付金施策活用割合



図表3: 補助金施策活用割合



図表4: 金融施策活用割合

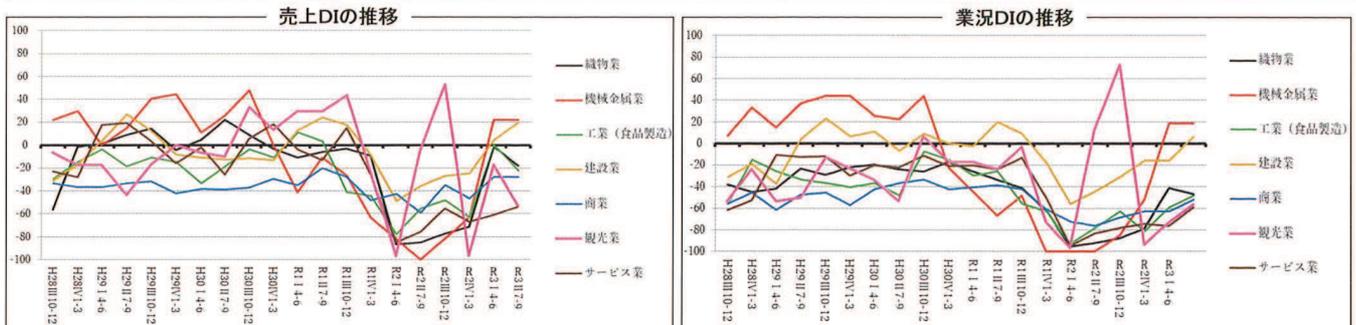
地域経済動向調査レポート—京丹後市版

～ 経済回復の兆し見えつつも未だ自粛ムード根強く先行き不安視される市内小規模企業 ～ 令和3年11月1日

＜調査概要＞ 【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2021年7月～9月 【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

＜産業全体＞ 経済回復の兆し見えつつも未だ自粛ムード根強く先行き不安視される市内小規模企業

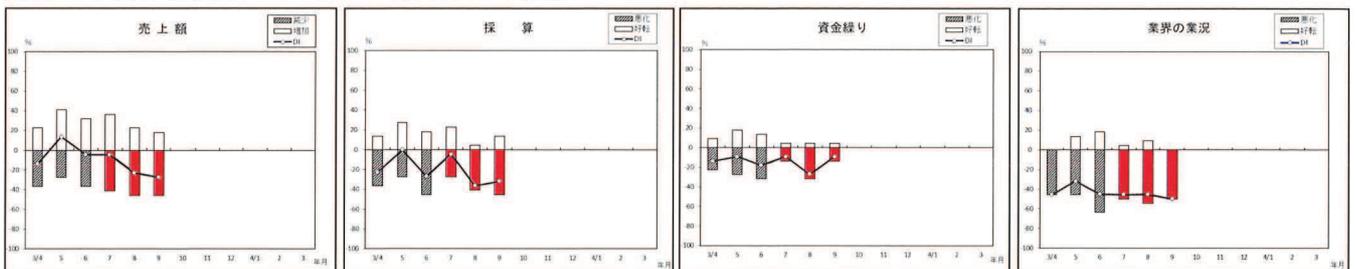
7月～9月の市内小規模事業者経済動向調査は、資金繰りDI以外の項目で僅かに悪化するもほぼ横ばいを推移した。前四半期との比較では、売上DIと採算DIがそれぞれ5ポイントの悪化を示すが、建設業（土木関連工事やリフォーム需要）が好調であったため、資金繰りDIと業況DIが僅かに改善した。全体的には緊急事態宣言等の延長を受け厳しい状況が続いている。感染者の急激な減少により経済回復の兆しが見えつつも、今後の第6波の懸念もあり先行き不安視するコメントが目立った。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

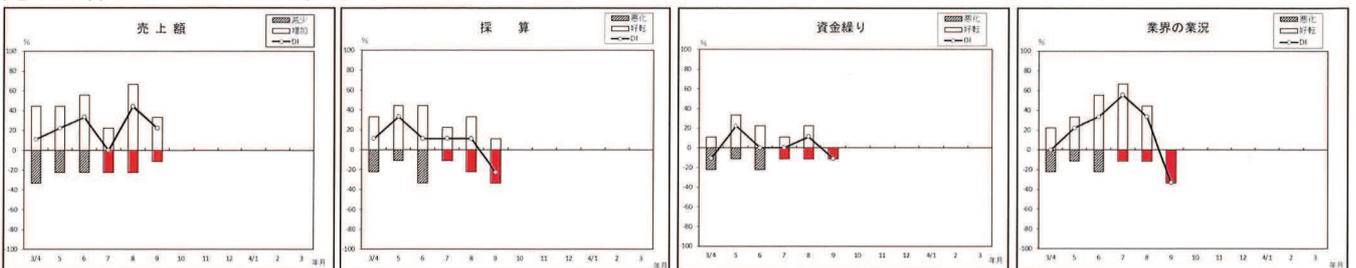
織物業 依然厳しい状況が続き、原材料の高騰も重なって先行き不安が広がる織物業

織物業の7月～9月は全ての項目で横ばいから僅かな悪化を示した。前四半期との比較でも、売上DIは17ポイント、採算DIと業況DIは8ポイント、資金繰り2ポイント悪化した。経営支援員からは、一時的な反動や機場確保のための発注により、完全に停止状態であった昨年と比較すると若干受注は伸びたが、原材料の高騰も重なって先行き不安が拡大しているとの報告があった。



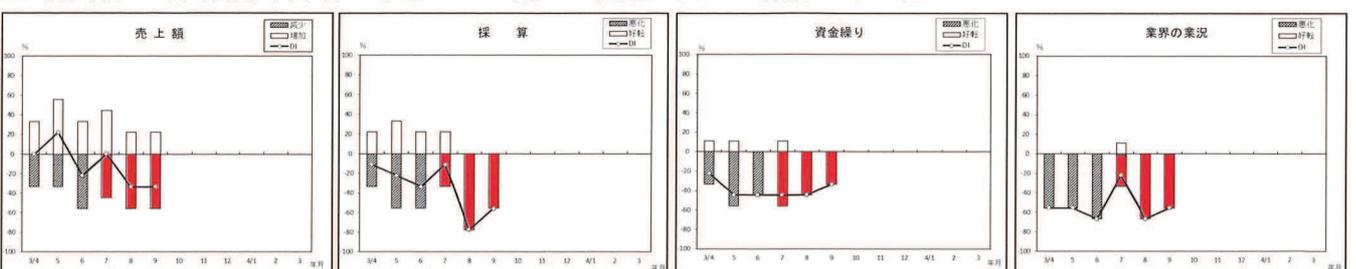
機械金属業 前四半期の大幅回復から一転悪化に転じ、先行きが懸念される機械金属業

機械金属業の7月～9月は、回復基調から一転、全ての項目で10ポイント以上の悪化傾向に転じた。前四半期との比較でも売上DI、業況DIは横ばいも、採算DI、資金繰りDI共に、5ポイント悪化した。経営支援員からは、取引先や部品の分野が限定されている事業者は受注の増減が厳しいが、複数の分野に対応できる事業者は順調に売上を伸ばしているとの声があった。



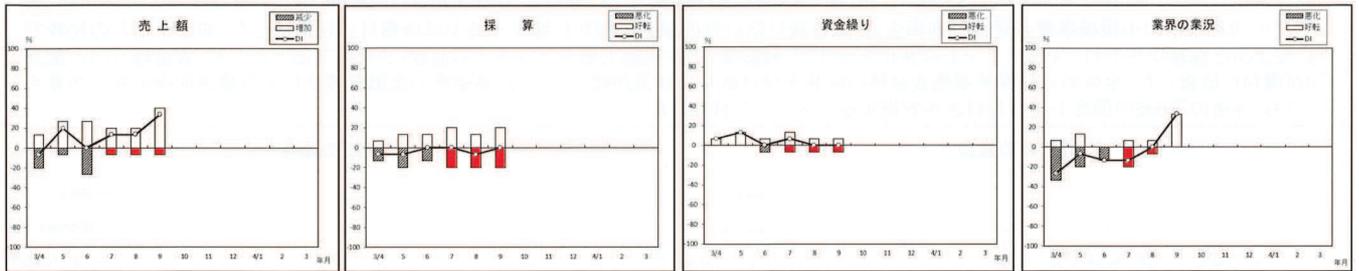
工業(食品製造) 一部で巣ごもり需要(ネット通販)が好調も依然厳しい工業(食品製造)

工業(食品製造)の7月～9月は、全ての項目で若干の上下はあるが、ほぼ横ばいを示した。一方で前四半期との比較では、売上DI、採算DI、資金繰りDIは20ポイント以上の大きな悪化を示し、業況DIは10ポイント改善した。経営支援員からは、繁忙期であるお盆前後に天候不順等の影響で仕入値が高騰したのに加え、イベントの中止、消費者の外出自粛や帰省の中止などで売上が低迷したとの報告があった



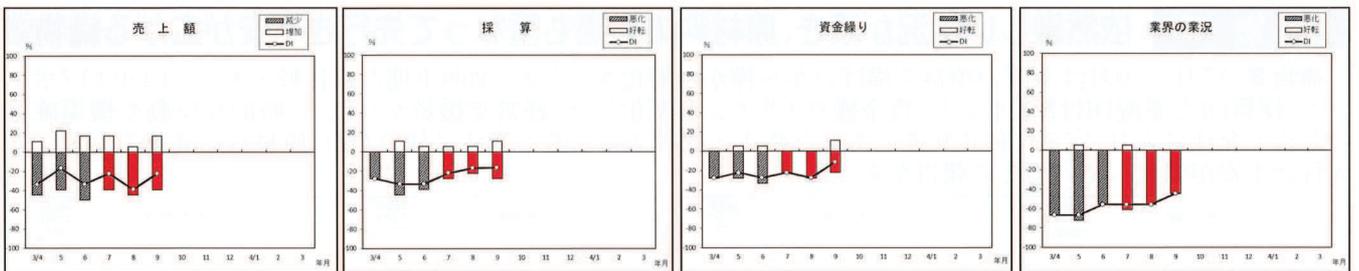
建設業 改善傾向示すも、ウッドショック等や慢性の人材不足に苦しむ建設業

建設業の7月～9月は、資金繰りDIは横ばいで、他の項目は全て改善を示した。特に売上DIと業況DIは20ポイント以上大きく改善した。前四半期との比較では、資金繰りDIが4ポイント悪化した。他の項目は全て10ポイント以上改善した。経営支援員からは、土木工事関連やリフォーム需要は好調なものの資材の高騰や慢性の人材不足により採算に苦慮しているとの声があった。



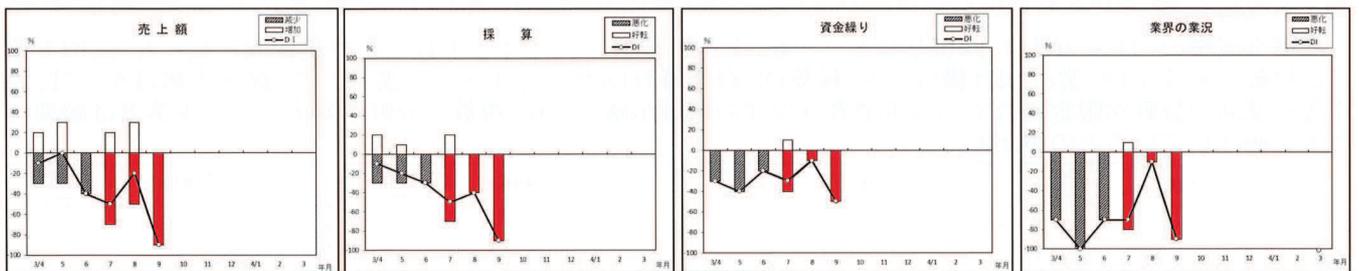
商業 需要減退により回復の見込みが立たず、先行きが不安な商業

商業の7月～9月は全ての項目でほぼ横ばいの結果となった。前四半期との比較でも採算DIが僅かに改善したものの、他の項目全てで横ばいとなった。経営支援員からは、消費者の外出自粛や帰省の中止などに伴って需要は著しく低迷し売上減少に大きく影響をしている。また、市内においてもコロナ感染者の急激な拡大によって外出抑制に拍車がかかるなど大きな影響があったと報告があった。



観光業 緊急事態宣言の延長で対応に苦慮するも施設改修が活発化する観光業

観光業の7月～9月は、8月期に全ての項目で改善を示すも9月に入り一転40ポイント以上の大きな悪化に転じた。前四半期との比較では売上DIは37ポイント、採算DIは40ポイント、資金繰りDIは横ばい、業況DIは16ポイント改善の結果を示した。経営支援からは、緊急事態宣言が延長となった影響で宿泊キャンセルが相次いだことや、休業を決めた事業所もあり、こうした期間のうちに、補助金等を活用し、感染予防対策を踏まえた設備改修を行う施設が増えているとの報告があった。



サービス業(飲食店) 緊急事態宣言延長の影響で採算悪化に苦慮するサービス業

サービス業の7月～9月は、売上DIと採算DIが20ポイント以上の大きな悪化傾向に転じた一方で、資金繰りDIと業況は僅かに改善した。前四半期との比較では、採算DIは20ポイント悪化した。他の項目は僅かに改善した。経営支援員からは、昨年GOTOキャンペーンがあったこともあり、対前年比で厳しい状況となり、協力の入金が遅く、酒類の提供が出来ないため、採算がとれないとの報告があった。

